

溶接作業の在宅勤務で得た教訓

溶接加工をメインにする従業員3人の町工場、クリエイティブワークス(東京都江戸川区、宮本卓社長)は、昨年4月からの緊急事態宣言の時期に在宅勤務を実施した。なんと、溶接職人の一人が自宅で溶接の実作業をした。宮本社長は「生産管理システムなどのソフト面と、室内でも使える溶接機器の双方があったから実現できた」と話す。

在宅勤務のきっかけは、職人の感染リスクの低減だった。その職人は1時間をかけて電車通勤をしていた。当時は電車での感染リスクが明確ではなく、在宅勤務を検討し始めた。

ソフト面では、その直前の昨年2月にクラウド型の生産現場向け情報管理システムを導入していた。同社も参画する協働組織「東京町工場ものづくりのワ」で協力企業3社の生産状況を共有するために導入。「情報を細かく入力すれば、そのまま自社の生産管理にも使える」と、遠隔での進捗管理に使った。

またハード面では、持ち運びをしやすい溶接キットがあった。これは同社が主催する溶接の講習「宮本

溶接塾」のために用意したもの。出張講習用に、溶接中でも火花が出ない「TIG溶接」の機材一式を台車に載せてそろえていた。

将来的には宮本溶接塾でオンライン講習



クリエイティブワークスの宮本卓社長



作業者の自宅に設置した溶接キット(=左)と作業の様子(提供)

を実施する計画もあり、作業者の手元の様子を中継するカメラを付けた溶接用遮光面などもあった。そこで「オンライン講習の予行演習のつもり」(宮本社長)で、溶接の在宅勤務を始めた。

作業者の自宅の室内に、溶接キットを設置。加工ワークの手配は、宮本社長が届けるか宅配便を使った。実際に2カ月ほど在宅勤務をすると、安全面に配慮すれば十分に実作業が可能なが分かった。一方、扱えるワークサイズの制約や溶接の前後工程は工場ではできないなどの課題も判明した。電車通勤での感染リスクがさほど高くないことも分かり、2度目の緊急事態宣言下では工場での出勤勤務を原則にした。

宮本社長は「それでも未知数だった部分が明確になった。実施して良かった」と振り返る。今回の在宅勤務で得たノウハウは、今後のオンライン講習に生かす。また、それだけではなく、新たな可能性も感じている。「内職作業のような形で、繁忙期にだけ溶接工程をパートやアルバイトに依頼する雇用形態もできそう。家事や育児が落ち着いた隙間の時間や、副業として自宅で溶接ができるって、次世代の働き方として素敵じゃないですか」と、理想を描く。

(西塚将喜)